

東葛飾中学校高等学校 自然観察マップ

～生物基礎・冬季編～

①クロマツ

高木で海岸沿いに生えるマツ。樹皮が黒っぽく、冬芽が白く、葉は硬い。対照的にアカマツは樹皮、冬芽が赤っぽく、葉は柔らかめ。アカマツは山沿いに生え、陽樹林を形成する。

- 白い冬芽
- 黒い樹皮
- 硬い葉 (先端を触ると痛い)

4 9 3 1 0

②ヤブツバキ

照葉樹林の低木層、亜高木層に生育する樹木。赤い花が咲き、蜜を吸いにメジロやヒヨドリが集まる。くちばしに付いた花粉は運ばれる。花びらについた黒い爪痕はメジロがとまったあと。初夏にはチャドクガの幼虫がいるため、触らないように注意すること。

- 赤い花
- 黄色い花粉
- 厚く硬い葉
- 常緑広葉樹
- 鳥の吸蜜



4 9 3 0 8

③ケヤキ

本州～九州の温帯に自生する落葉広葉樹。扇形に広がる樹形で、高木になる。本校のミニサンクチュアリにある本種は、周囲に樹木があるため、光を奪うように、背が高く、細長いほうきのような樹形に成長している。また種子の付いた枝が飛ばされ、周囲に落ちている。

- 細長い樹形
- 種子の付いた枝

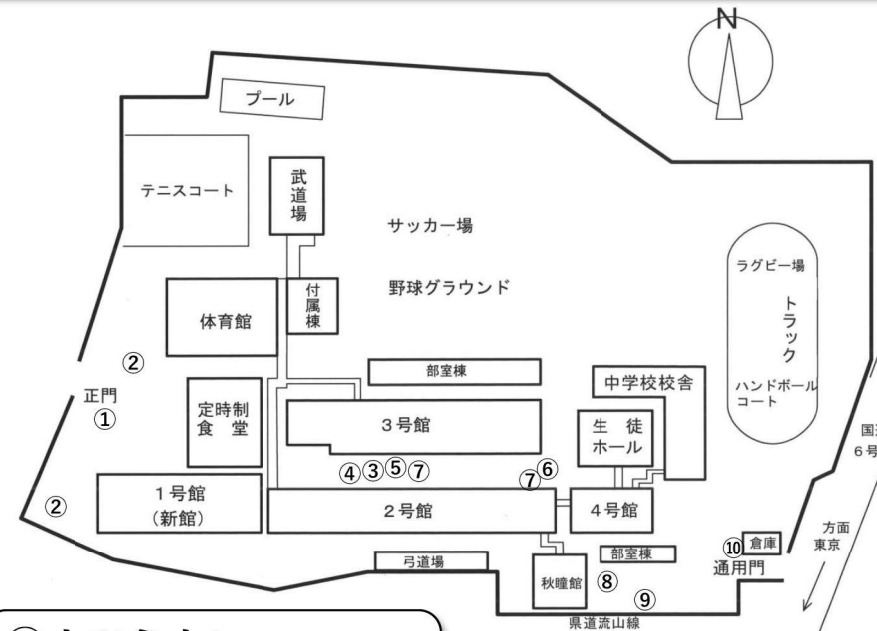
4 9 2 9 3

④落葉層・腐植層

落葉・落枝の層と分解の進んだ腐植の層が見られる。物質生産の中で落葉・落枝は枯死量に相当し、成長には使われない。

- 落葉層
- 腐植層

7 6 4 9 8



⑩クスノキ

暖温帯に自生する常緑広葉樹の高木。日本産広葉樹で最大級となる。葉には三行脈があり、付け根にダニ室がある。

- 葉のにおい
- ダニ室

4 9 2 8 3

⑨スダジイ

暖温帯に自生する常緑広葉樹の高木。照葉樹林の代表的な極相種。周囲にはドングリ(堅果)が落ちている。

- 葉(裏はオレンジ色)
- ドングリ

4 9 2 9 4

⑧ソメイヨシノ

高木の落葉広葉樹で、エドヒガンとオオシマザクラの雑種。冬芽は温度に依存して成長し、日々の気温を足した温度(積算温度)が一定値を超えると開花するとされている。葉よりも花が先に咲くため、美しさが際立つ。

- 冬芽 (ラウンケルの生活形では地上植物に分類される)

⑤ナツミカン

常緑広葉樹の低木で、関東以西で果樹として栽培される。ナツダイダイといい、果実は冬を越して夏が食べ頃。先代の実と後代の実が同時に成ることから代々(橙)という。

日当たりの良い外側は小さい厚い葉がつき、日当たりの悪い内側は大きな薄い葉がつく。それぞれ陽葉、陰葉という。

- 陽葉
- 陰葉
- 果実

4 9 3 0 3

⑥メタセコイア

中国原産の落葉針葉樹で高木。白亜紀後期～古第三紀の化石種と考えられていたが、現生の種が1945年に中国で発見され生きた化石と言われる。美しい樹形と紅葉が美しい。

針葉樹に見られる三角の樹形は太陽高度が低くても日射を得るためとされている。

- 三角の樹形

4 9 3 0 0

⑦コケ・シダ・地衣類

コケとシダは花をつけない植物で、陰湿地に生育する。地衣類は菌類と藻類の共生体である。

コケや地衣類は遷移初期のパイオニア種であり、貧栄養で乾燥に耐え生育することで土壌を形成する。

- コケ
- シダ
- 地衣類 (エノキの樹皮の緑色)

7 6 5 0 5

※はなもく散歩アプリ>木と友だちになる>QRコードの入力欄 上記の数字を入力してください。解説が見られます。 観察できたものはにをしましょう。

--



□ヒヨドリ

スズメよりも大きく、体長は25cm前後。
頭の毛がボサボサと立っており、茶色いほおの毛が目立つ。鳴き声は「ヒーヨ、ヒーヨ」で、大きな声で鳴く。

ツバキの花蜜、エノキの実などを食べに木々を飛び回っている。特に生物室前の水場に多くおり、赤い実を食べたり、水を飲んだりしている。

□ハクセキレイ

スズメよりも若干大きいくらい。頭は黒く、背中が灰色、横顔は白いが、黒い筋が入っている。鳴き声は「チチン、チチン」という地鳴きをする。

人が近づいても逃げずに歩くことが多い。



□ムクドリ

スズメよりも若干大きいくらい。褐色の体色で、顔は少し白い。黄色のくちばしと足が目立つ。鳴き声は「キュリリリ」という地鳴きをする。草地の中にある虫を探して食べている。



振り返り

1年 組 番 氏名 ()